

仕事始め式あいさつ

あらためまして、明けましておめでとうございます。

平成29年の新春を皆さんとともに迎えることができましたことを心からお喜び申し上げる次第でございます。

今年の干支は「ひのと・とり」酉年です。商売繁盛につながるとされており、トリは「取り込む」につながると言われ、そこから運氣もお客も取り込めるというものです。また、「果実が極限まで熟した状態」というものが、そこから物事が頂点まで極まった状態が酉年だと言われています。新しい取り組みを始めていくには、良い年とされていますので、成果が得られるよう頑張ってまいりたいと思います。

わたくしも、今年で59歳。役場職員であれば、あと1年で定年退職を迎えることになるわけですが、今の町長という責任ある立場に就任させていただき、4年間という与えられた任期の中であと残された任期は、折り返しの2年間であります。

職員を見渡しても、同級生と年上の職員は数人となり、ほとんどが私より年下の職員ばかりになりました。なかなか一人ひとりとお

話しする機会が持てなくて申し訳なく思っていますが、今後は機会を設けたいと思います。皆さんの顔はよくわかりますし、その人が持っている性格みたいなものも随分とわかるようにはなってきたつもりですが、今後しっかりとコミュニケーションを図ってまいります。

そこで思うことがいくつかございますので、お話しさせていただきます。

一つ目が、皆さんもだんだんと、私に直接ものが言いにくくなるかもしれません。私自身は何も変わらないつもりですし、そう思っていないけれども、そういう可能性があります。そして、私のところへは、悪いことが入らなくなる恐れもあるわけでありまして。これは、大変恐れなければならないことでもあります。

そして、二つ目が、2年間の少し安定してきた状況の中で、お互いがあまり角を突き合いたくない、嫌われたくないというようなことから、ついつい厳しいことが計画されず、「マンネリになる」「惰性になる」そういう恐れもあります。

一つ目のことについては、今までは職場においても、人生においても私よりも年上の職員がおり、町の情勢や職員の中にあるいろい

ろな不満があるというようなことも、それぞれの立場からご助言もいただいていた。しかし、これからは私よりも年下の職員であり、なかなかそのようには言いにくいだらうと思いますので、我々自身が自戒をしながら、これをやっていかなければいけません。

ナポレオンが言い残したことばの中に「戦況が悪い時には、夜中でも起こせ、勝った時には報告は明日でもいい」という言葉がありますけれども、直接私にでもいいですし、少なくとも副町長、教育委員会であれば教育長にはそういう悪いことは、きちっと上がるようにお願いしたいと思います。

二つ目は、波風を恐れると新しいものが生まれなくなってしまう。お互いの課で一つのことを計画すれば、他の課と調整しなければならぬことがあります。そのための副町長であり、町長でありますから、そういう新しいものをどんどん計画して、新しいニーズにこたえていく努力をしてほしいと思います。

我々の中には、まだまだいろいろな課題があります。本当に対応しようという思いを持てば、いくらでもあります。そして、この知恵が出てくるのは、現場からしかありません。私も長いこと行政マンをやっていました。いろんな方がいろいろな思い付きを口にしま

す。思い付きは思い付きで、参考になることはありますが、ほとんどが思い付きなのです。皆さんの課で、それぞれの課題があると思いますが、この課題解決のために施策を取りまとめるのは皆さんしかいないのです。

世の中はこれだけ変化をし、その変化に皆さん方は毎日の仕事に変化を求めないでやることの方が多いように感じます。

私たちの毎日の仕事は確かに同じことの繰り返しに見えますけれども、そこには「挑戦」というものがなければなりません。挑戦というのは、これだけ財政が苦しくなってくると改革しなければなりません。その改革は目的をもって挑戦していくことではないかと思っています。

日々の仕事の中で、いつも「どうしたらいいかな」と思っていないと、なかなかアイデアというものは浮かばないものであります。皆さんには、自分たちの目の前の仕事がより良きものになっていく、これが一步ずつでも確実に進化していくことに繋がると思っています。

東栄町第6次総合計画に基づいた重点プロジェクトをできるものから手を付け進行形の形に持っていくことが、残された2年間の仕

事であると思っています。

長期計画というのは、新しいことあるいは拡充していくことがほとんどですが、実際にはほとんどの仕事は、この東栄町の運営、また、まちづくりのために日常やっていることをきちっとやっていくことです。住民票や印鑑証明、納税証明等をだすことは、わざわざ長期計画には書きません。けれども、これがきちっとできていくことが、この町の円滑な運営に繋がっていくものであり、それぞれの仕事は、どれも大切であり、これをきちっとやりながら、第6次総合計画において、みんなで描いた将来の絵を実行に移していくことが我々の責務であると思っています。

最後に、忘れてはならないのが、この町を預かり市民の生活を守っていく、そのエリート集団でなければなりません。だからといって、^{おごり}驕りや高ぶり、または市民の方々に対して誤解を与えるような態度をとってはなりません。

そこで一番喜ばれるのは何だろうか。それは、やはり笑顔だと思います。笑顔というものは自分自身に対しても、周りに対しても温かい、そんな雰囲気を与えることになります。そのためにも、健康を保っていただきたいと思います。私も最近つくづく体力不足を痛

感じています。機会をつくって、健康づくりに取り組みたいと思っています。また、このところ職場におけるメンタルヘルスの重要性も言われています。職員みなさんが「心と体の健康」に一層留意されまして、「明るく・楽しく・元気に」笑顔で仕事ができる職場づくりに努めていただきたいと思います。

町民の方々から役場の皆さん方のおかげで自分たちが安心して毎日暮らすことができ、厳しい世の中であっても、役場の皆さん方が一生懸命やってくれる姿を見て励まされ、そして自分たちの地域のために頑張っていこうとっていただけるようになればと思っています。

どうぞ職員のみなさん方のより一層のご支援ご協力、そして何よりも笑顔というものを一人ひとりが、しっかりと前面に出して、この1年明るく、そして健康で幸せあふれる年となりますよう心からお祈り申し上げます、平成29年の「仕事始めのあいさつ」といたします。本年もよろしく願いいたします。

平成29年1月4日

東栄町長 村上孝治